

留学先大学：ワシントン大学

留学先での所属学部・研究科：Arts and Science

留学先での在籍身分：undergraduate student

留学期間：2013年9月～2014年6月

神戸大学での所属学部・研究科：法学部 法学研究科

学年（出発時）：2

本報告書記入日：2014年8月6日

授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習, 復習, テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	JSIS200: States and Capitalism	Anand A. Yang	5	5	265	教官が授業中使用スライドはすごく細かく、すべてを写すことはできないので、復習が必要である。
2	Eng 298: Writing link to JSIS 200	John O'Neil	3	5	8	現地の新生等とともに、エッセイの書き方の基本から学べる。
3	C Lit 250: Introduction to comparative literature	Russell Black	4	5	30	文学の授業だけあって、リーディングの予習は多いが、覚えることも少なく、比較的簡単な授業であった。
4	JSIS 201: The Making of the 21st Century	Joel S. Migdal	5	5	300	課題の量が圧倒的に多く、全てこなし、期末試験も乗り切るためには、友達と協力して予習復習することが必要であると思った。
5	PolS 201: introduction to Political Science	Deepa Bhandaru	4	5	300	課題のリーディングは、古い哲学書等難解なものも多かったが、教授がすごく親切で、丁寧に対応してくれる。
6	Music 233	Christopher Mechell	2	2	15	生徒は3名ずつのクラスに分けられ、ピアノの指導を教官から直接受ける。
7	JSIS B441/551: Forced Migrations	Kathie Friedman	2	5	40	学部生・院生混合の授業。文献やドキュメンタリー等をもとに授業がすすめられる。試験はtake home型。
8	PolS 204: Introduction to Comparative Politics	James D. Long	5	5	150	term paperなどがなく、中間試験と期末試験のみで成績が出される。またクラス内での発言等も大きく成績に関わってくる。
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

クラスのサイズが小さいほうが、議論が深まり面白かった。とくに最後の学期に400代のクラス番号のものをつとめたが、院生と合同の授業で、クラスメイトは自分よりも遥かに知識があり、課外活動の経験のある生徒も多くおり、そのような人たちと知り合い、話をきけるすごく良い機会になった。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：20万円

・住居費：（月額）6万円 ×（留学月数）9ヶ月 = 54万円

・食費：（月額）3万円 ×（留学月数）9ヶ月 = 27万円

・保険料：12万円

・その他：教科書代 5万円

合計：118万円（留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

この交換留学の9ヶ月は、すごく充実した時間であり一瞬のように感じた。文化の違いや自分の英語力の拙さ等で、きついと思ったことも何度もあったが、行くことができて本当によかったと思う。渡航前と渡航後で変わったと思うことがたくさんあるが、大きく分けて3つある。

一つ目は、英語力の伸長によって、手に入る情報の量が格段に増えた。ワシントン大学では図書館がすごく大きく蔵書数も莫大である上に、オンラインでさらに多くの文献が手に入る。これらの本、文献については、英語で読めるというだけで日本語だけのときよりも桁違いの数の文献等に触れられる。読むスピードも膨大な課題をこなすうちに格段に速くなり、より多くの情報に触れることができた。New York Timesを購読したことも、情報を得る上ですごく役に立った。

二つ目は、いろんな国の人と交流することで、文字通り世界が広がった。私はとくに難民について学びたく、留学したのだが、アメリカは難民がすごく多いぶん、それらの問題がもっと身近なものとして認識されており、政策も充実していた。難民を家族の中に持つ人や、それらに関する活動に参加しているクラスメイトも多く、生の声を聞くことができ、日本では感じられなかった人種の多様性とそれに付随する問題を実感し、自分の中の考えに大きく影響した。

三つ目は、今後の自分のやりたいことについて、より具体的なイメージをもつことができた。授業・課題を通して知識がかなり増えたことや、難民に直接関わる仕事をしているクラスメイトや、アフリカで活動するNGOに参加しているクラスメイトから刺激を受けたことなどがきっかけで、自分が将来どんなことを仕事にしたいか、また大学院でどのような研究をしたいかについてたくさん考え、具体的な方向性を見いだすことができた。

学業の面においてこの留学がすごく役に立ったことはまちがいないが、それ以上に、日本と全く違った文化等をもつ国に長期間滞在したことは、自分の考えにすごくおおきな影響を及ぼした。

最後に、留学をする人に薦めたいのは旅行である。勉強で忙しかったので冬休みと春休みはあまり旅行ができなかったが、授業が全て終わったあとの夏休みに10日間ほど、ヨーロッパ人の友達とロードトリップに行った。日本では見られないような景色や、できないようなハイキング等をすることができたのも楽しかったが、友達と一緒に長い時間過ごしたことはかけがえのない思い出になったし、いろんな国、バックグラウンドを持つ友達との友情は人生を豊かにしてくれると思う。学業はもちろん一番大事だが、留学を通してそれ以外にも得られるものはたくさんあると思う。